

**製品名: クロトニルヒストン H2B (Lys12) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe03903**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	クロトン化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質を含む液体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:14 kDa;Observed MW: 14 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	H2BC4
別名	H2BK11cr, Histone H2B.1 A ; Histone H2B.a (H2B/a) ; Histone H2B.g (H2B/g) ; Histone H2B.h (H2B/h) ; Histone H2B.k (H2B/k) ; Histone H2B.l (H2B/l)
遺伝子 ID	3018
SwissProt ID	P33778
免疫原	標的タンパク質残基に対応する合成クロトン化ペプチド

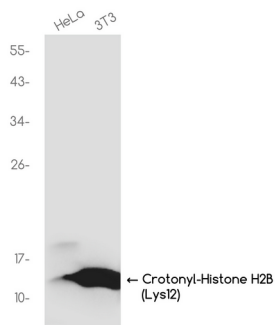
**背景**

ヒストンは、アセチル化、メチル化、リン酸化、ユビキチン化など、様々な酵素触媒修飾を受けます。リジンのクロトン化は、染色体構造と遺伝子転写を制御する新たに同定された可逆的な修飾です。可逆的なリジンのクロトン化は、線虫からヒトに至るまでの真核生物ヒストンにおいて十分に実証されています。ヒストンリジンのクロトン化の独特な構造とゲノム局在は、ヒストンリジンのアセチル化とは機構的にも機能的にも異なることを示唆しています。具体的には、ヒトの体細胞ゲノムとマウスの雄生殖細胞ゲノムの両方において、ヒストンのクロトン化は活性プロモーターまたは潜在的なエンハンサーのいずれかを標識します。ヒストン H2B の Lys11 におけるクロトン化は、クロマチンリモデリングや DNA 転写制御を含むエピジェネティックな調節において重要な役割を果たす可能性があります。

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



クロトニル-ヒストン H2B (Lys12) 抗体を使用した、HeLa 3T3 溶解物中のクロトニル-ヒストン H2B (Lys12) のウエスタンブロット分析。